

開いている扉を通る道（2026年7月15日）

どうすれば天国に行けるでしょうか。言い方を変えれば、どうすれば完全な調和を成し遂
開いている扉を通る道^{ほうとう}げられるでしょうか。放蕩息子の兄は、ここで反面教師の役割を演
じています。礼拝の中で、主使徒)はその完全な調和を実現するための方法を示しています。

「親父の所に帰ろう。」どん底を味わった放蕩息子は、この思いを胸に抱いて家路につきました。これはルカによる福音書第15章でイエス様が話されたたとえ話です。放蕩息子は、自分が想像したより、をはるかに超えるほど温かく、父親に迎え入れられました。

ここまでは、よく知られているお話です。しかし、2026年6月21日にドイツのカールスルーエで行われた礼拝の中で、ヘルゲ・ムチュラー主使徒は兄の行動に焦点を当てました。この若者は、父親が用意した楽しい祝会が行われているのを見聞きしながら、心は傷つき、恨み骨髓で外に外にいたままでした。

自ら閉ざしてしまう

すべての信徒にとって気をつけなければならないことがあります。この祝会は天国を表しています。御父と御子との交わり、天国にいるすべての人々の交わり、様々な点で異なる人々が一つに結ばれている様子を表しています。愛にある完全な交わりです。この祝会に、どうすれば入ることができるでしょうか。どうすれば天国に入ることができるでしょうか。

決して、あの兄のような態度を示してはいけません。「私は常にすべての戒めを守ってきたのに、弟は放蕩の限りを尽くしました。私は評価されるべきです。彼は違います。そしてお父さんは私には何もくれなかったのに、彼にはすべてをお与えになりました」と文句を言ったのです。主使徒はこの姿勢を、虚栄心と利己心という二つの言葉で要



約しました。このような態度では、相手との関係を悪くしますし、一つになることもできません。

尊敬と配慮

使徒パウロはフィリピの信徒への手紙2章3～4節で、分裂状態にあった会衆に対してこう書いています。「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい。めいめい、自分のことだけではなく、他人のことにも注意を払いなさい。」

「謙虚」を意味する当時のギリシャ語は、奴隷の卑屈さを指していました。恥ずべきこととされていた。しかし、パウロがこれを「尊厳」という言葉と組み合わせることで、謙虚であることの価値観を根本から変えました。たとえ最も小さく、最も取るに足らない、最も弱そうな人であっても、その人を「王であるかのように敬いなさい」ということなのです。

また、これは自分自身にとって必要なことを軽視しろ、ということでもありません自分自身のこと「ばかり」考えるのではなく、人が必要としていることにも目を向けなければなりません。十分に

そうですね。

取り残される恐怖

考えれば考えるほど、「自分の努力だけでこの戒めを守ることはできない」ということがはっきりします。すると、究極の疑問が生じます。「なぜそういう行動をしてしまうのか。なぜ利己心、虚栄心、自分への執着が、自分を支配してしまうのか」ということです。

しかし、答えは驚くほど簡単です。それは「恐怖」です。人に見てもらえない恐怖。取り残されるのではないかという恐怖。つまり、深い意味での困窮なのです。この恐怖に対する特効薬として、ヨハネの手紙一 4 章 18 節に次のように書かれています。「完全な愛は、恐れを締め出します。」

自分の努力ではなく

「しかも、この愛は私たち自身のもものではありません。イエス・キリストの愛です。キリストの愛だけが、この恐怖を払拭できるのです。そして、この問題の本質に行き着きます。つまり、大切なのは、謙虚になろうと努力することではなく、私たちの目を絶えずイエス・キリストに向けることなのです。

先ほど引用したフィリピの信徒への手紙の続きは、キリスト賛歌として有名です。イエス様が神様の栄光から人間として質素な生涯を送り、十字架の死をもって頂点に達したその歩みを、パウロは綴^{つづ}っています。キリスト——特にキリストの謙虚さ——に目を留めると、私たちの内面において、何かが変化します。

開いている扉を通る道

私たちが翻弄している恐怖が消えます。認められたいという欲求〔自己承認欲求〕に支配されなくなります。どうしてでしょうか。キリストが私たちを見ていてくださるからです。愛してくださるからです。必要なものを全部くださるからです。

最後に、ムチュラー主使徒は、放蕩息子が帰って来た時の祝会に話を戻しました。天国の門は開いています。大事なのは「利己心やうぬぼれにはまって、門の外に居続けているのか。それとも、キリストのような謙虚さを身につけているかどうか」です。私たちはいつでも招待を受けています。道は開かれているのです。

ナックトゥデイ

新使徒教会国際本部発行

原著 Andreas Rother

写真 Volker Balling, CC. Spindler

日本語訳発行 〒 206-0014 東京都多摩市乞田 1320 日本新使徒教会
(042)374-0070